

## 議 事 録

会議の名称	岩倉市自殺対策計画委員会（令和5年度第2回）
開催日時	令和5年12月25日(月) 午後2時から4時まで
開催場所	岩倉市役所 7階 第1委員会室
出席者	<p>大藪元康委員長      若杉賢司委員      伊藤文委員                  櫻井智委員            檜木治幸委員      王子田美樹子委員                  小川美枝子委員      渡邊あけみ委員      松本勇二委員                  櫻井逸子委員</p> <p>健康福祉部長（長谷川忍）      福祉課長（石川文子）                  福祉課障がい福祉グループ長（片桐慎治）                  福祉課障がい福祉グループ主任（渡邊拓己）                  株式会社エディケーション（大野敏秋）</p>
欠席者	清水美和委員、青木大委員
説明者	福祉課障がい福祉グループ（渡邊拓己） 株式会社エディケーション（大野敏秋）
会議の議題	<p>1 あいさつ                  2 議題                  （1）市民アンケート調査結果について                  （2）第2期岩倉市自殺対策計画（案）について                  （3）第2期岩倉市自殺対策のパブリックコメントについて                  3 その他</p>
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（                      ）
会議に提出された資料の名称	<p>（資料1）岩倉市自殺対策計画推進委員会名簿                  （資料2）岩倉市こころの健康に関する市民意識調査結果報告書                  （資料3）第2期岩倉市自殺対策計画（案）                  （資料4）「第2期岩倉市自殺対策計画（案）」パブリックコメントについて</p>
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0人
その他の事項	なし

## 1 あいさつ

## 2 議題

### （1）市民アンケート調査結果について

事務局から説明。

委員長：アンケートの結果をみると、アンケートを実施すること自体が啓発になっていると思う。例えば、103 ページには「今回のアンケートは問題を再認識する機会となった」とある。また、117 ページにある「このアンケートがストレス」という記述からは、直視するのが難しい問題でもあると考えさせられる。

委員：委員長の言われるように、非常に重い問題。いろいろな考えの方がいて、さまざまな要因によって自殺に追い込まれた状況から脱却できた人たちがいることがわかったが、悩みを持った人たちにどのように情報を届けていくのか。そういう場やモノがあるにも関わらず、そこまでたどり着いていない。SNS等で人とつながっていても抑止になるとは限らない。face to face で顔をつきあわせて話すことが抑止につながっているのであれば、ネットでの啓発よりも、とにかく窓口やまわりの人につなげていけるような、悩んでいる人がそういった場所へ足を運ぶ、顔を出すことができるよといと、アンケートを見て思った。個人個人に合わせるのは無理だと感じるくらい要因が多岐にわたり、非常に難しい問題で、大変なことだと感じた。

委員長：回答の有効率が3割を切っているのも、アンケートのテーマの特性かと思う。性別・年齢別の分析では、10～20代が12人などとなると、1人あたり10ポイント程度持っているということになる。難しい問題だが一定の有効回答者数を確保することも課題となる。

委員：アンケートの対象者はどのように選んでいるのか。ある程度年齢等を考慮して送っているのであれば返ってきた年代別の回答割合がわかるかと思うが。

事務局：無作為抽出といって、ランダムに選ぶが、地域と年齢に偏りがなくなるようにという条件を設定して選んでいる。基本的には多少のばらつきはあるものの、等しく送っている。

委員長：回答者は高齢者の数が多いが、送付の段階ではできるだけ色々な地域や年代の対象者を選んでいるということかと思う。結果報告書に「対象者の抽出にあたっては、年齢と居住地域を考慮して抽出しました」と記載してあるとより正確かと思う

委員：報告にもあったが、インターネットやSNSで他者とつながっている人でもすごく孤独で、自殺を考えるとことがある。つながっているからよいと思うのではない。SNSでも誹謗中傷があったりして無責任と覚えることもある。だから、もう少し人と話し合えるようなインターネットやSNSの使い方があるといいなと思う。

委員長：相手が見える関係は大切である。一方でSNSは匿名性が高いもので、それぞれの取組の特性があり、匿名だからこそ言えることもある。やはり、いろいろな取組を進めることが大切だと思う。SNS相談から実際に会えるところまでつながるものもあった方がよい。伝える部分と、実際に対応する部分とをうまくつなげるとよい。

## （２）第２期岩倉市自殺対策計画（案）について

事務局から説明。

委員長：まず、現状や評価について説明いただいたが、「○」や「△」をつけていただいたのは、スタートの時点と現在を比較して、よくなっていたら「○」ということか。

事務局：統一性のないところがあるため、もう一度精査させていただければと思うが、基本的には、良くなっていて、目標にある程度近くなっていたら「○」として

いる。  
委員長：28ページの「若い世代の本気で自殺したいと思ったことがある人の減少」を見たとき、男性の30代が16.2%から14.3%に下がっていて「○」となっている。目標値からみると到達していないが、16.2%から14.3%に下がっていると読み取るのだろうと思ったため、その辺りを統一するとよいと思う。

委員：27ページの「基本施策3 広報・啓発の充実」、28ページの「重点施策1 若い世代への支援」、30ページの「重点施策3 高齢者への支援」について「△」になっている。情報をHPや広報紙、ポスター等いろいろなことで発信されているにも関わらず、結局、27ページの「基本施策3 広報・啓発の充実」の評価が「△」で数値も大きくは変わっていない。若い世代への支援として、SNS相談などがあるが若い人にさえ情報が届いていないため評価が△になるのかと思う。高齢者に至っては当然、SNSは触りづらいから届いていない。高齢者の方も広報紙などは見ているはず。それなのに、情報が届いていないのか

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

という印象を受ける。そのような状況で、「△」をどうしたら上げていけるのか。そういったことも考えながら、これから先につなげていけるとよいと思う。

委員長：第2期の計画の中で、そのあたりが反映されてくると思う。

委員：「△」が多く、どうしたらよいのかと思う。特に、高齢者についてはもう少し対策ができるとよいと思った。

委員長：アンケートに回答していただいた方の中の状況であるため、回答していただかなかった方を思うと、かなり厳しい状況が想像できる。委員がおっしゃる通りだと思う。

委員：本当に難しい問題だと思う。数字で見れば、自殺率は10万人に対して自殺者が何人ということで、岩倉市の場合は1人増えるだけで2ポイントくらい変わってくるため、数値は大きめに上下しやすい。自殺は個別的な要因も非常に多く、SNSにしても、情報を仕入れる場所として利用できるだけでなく、関わることで、逆にそれによっていろいろな問題が起きている人もたくさんいる。特に若い人は、「離れなさい」と言われても、離れられない人もいる。だから、単純にSNSを使っている、使っていないという括りでもの言えるのかどうか、と思う。

委員長：SNSを使っていることも問題の要因になっている。

委員：私も個別の方と関わる機会が非常に多く、おっしゃられたように、数字だとなかなか実態が見えないかと思う。仕事をしていると、個々人の詳しい背景等の情報がないと、支援について考えるのは難しいと毎回思う。こういった数字の中で考えていかないといけないことに、すごく難しさを感じる。個人情報との関係で、情報がどうしてもあがってこないというのはあるが、考えるときの難しさはある。

委員長：個別性が高いため、情報が出にくいところではあるが、数字からイメージして、取組を検討していくことになる。

委員：自殺の問題は、施策に対する評価で「○」や「△」をつけにくい課題。ただ、こうしたいろいろな視点から考えていただき、例えば学校では何かできるかなどを考えていくことはすごく大事なことだと思う。自殺が起きてからでは遅いため、そういう意味ではこうした資料を見せていただくのは参考になる。ただ、アンケートも

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

十分な回答率がない中、行政で形にしていかなければならないのは大変だろう、苦労があるだろうと思う。

委員：計画案を読ませてもらい、ひとつのアンケートから多岐にわたり考察して、まとめて、グラフにするのは大変だろうと思ったのが第一印象。それをもとに、私に何ができるのかと思ったときに、申し訳ないけれど、何もできない自分がいるのではないかと思う。皆はこんなことを考えているんだ、とわからせてもらうことはできるが、これをもとに私からどんな意見が言えるのかいうと、言えないと思ってしまい、申し訳ないと思った。それと、返答をしてくださらなかった70%の方々はもしかしたらすごく前向きで、もし返送してくださったら、どれもこれも「○」になるような方だと思うと、これをやっている意味は何になるのだろうと思う。

委員：岩倉市の人口規模の特性上、突出して性・年齢別の死亡率が高い理由は何か、といっても、たまたまそのときに多かったという可能性を捨てきれない。計画には評価を載せないといけないと理解しているがその評価が非常に難しいと思う。

委員：私は後期高齢者だが、人間は一人ひとり違う。だから、このようにアンケートをとらないと、全体は見えないが、一人ひとりを掴むことが一番大事かと思う。女性の自殺者が増えてきたことについて私は38年間仕事をしてきたが、私が知っている人だけで7人自殺者がいた。その中に女性は1人もいない。後からどうしてだろう、と考えたが、主な原因がパワハラによる自殺がほとんど。実際に地域にいて、自殺者に会ったことはないが、一人ひとり思いは違うだろうと思う。そういうこともあり、市民委員としてこの委員に入らせていただいたが、やはり最後は一人ひとりを細かく見れるようなシステムをつくるのが重要だろうと思っている。

委員長：行政計画で1対1の対応を考えていくことは難しいが、そこにつなげていけるような内容になるとよい。

委員：私は70歳になったが、母親が97歳。いろいろと困っていることもあるが、母はデイサービスとかには絶対に行かない。面倒をみないといけないため、そういうことで心が病んでいく人もいると思う。高齢者が高齢者をみるため、いろいろな問題が出てきて、どうしたらよいのか。私は来年町内会長をやるが、回覧板をなくすという案が出ている。こういうことも携帯電話等の影響なのかと思うが、携帯電話は年をとると難しいことばかりで、わからない。知らせがあったら携帯で

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

伝達するという案も出ていて、回覧板もなくなるのかと思った。町内や隣の家に行くこともない。アパートは多いが、若い人が多く、そういう人は町内会費も払わないし、町内会を一軒家でまわしているだけなので、さびしいと思う。

委員長：アンケートにも表れているが、地域とのつながり、住まいやどれだけ暮らしているかなどの背景はあると思う。関心をもってもらうことから始まるのかと思う。自殺につながる要因には色々な側面があり、地域福祉計画や介護保険事業計画にもつながる。

48 ページに数値目標として、自殺死亡率を 2026 年に 5.8 以下とする単年の数値だが、計画期間全体の平均、もしくは 2024～2026 年の 3 年間平均で記載してはどうかと事務局から提案があった。この根拠としては 9 ページにある自殺死亡率の推移に非常に波があり、この要因が明確であればよいが、明確な要因は見えないことが多かった。岩倉市の人口規模を要因とした上下の波であることから、平均でやるのはどうかとのこと。いろいろな見方があると思うが、計画全体の平均はどうかと思って聞いていたが、まずは平均でよいかということも含めて、ご意見がある方はお願いします。

委員：私は行政計画で指標を出すときのやり方がわからないが、実際に評価をするときに、バラツキ、突然数値が上がる異常値が出たときに、どのようなやり方をしているかによって評価は変わってくると思う。岩倉市は平均値の目標を設定する、と決めることはよいと思う。そうすると、今度は、県内の市町村の指標との整合性があるのか、お互いに比較して評価はできるのか。平均で目標値を設定した場合、県内の他市町村とは違うやり方で、独自で目標値を出しているからよい、という話であれば、岩倉市独自の考えで良いと思うが、他の市町村の評価と比較も必要になると、目標値そのものが違う場合に評価の基準が変わってくることはないのか、教えていただきたい。

事務局：平均にしたときに、数字を上げましょう、ということは考えていない。平均にしても、平均の 5.8 をめざす。そのうえで、他の国や県との評価のバラツキが出てくるのではないかとのご指摘は、当てはまることはあると思うが、推進委員会に毎年の数値は提示していく。あくまでも、評価指標としては平均にならした方が、上下の乱れに左右されずに評価ができるため、そのような考え方はいかがでしょうか、という提案である。

委員：他の自治体もそのようにしているのか。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局：今、ほとんどの自治体が一斉に計画を改定しているところ。県はすでに出ているが、市町村レベルではまだ先行して出ているところはないため、不明。県は単年で目標値を設定しているが、人口の規模が多ければ多いほど、バラツキが少なくなっていくため、国や県は単年でもそれほど問題ないと思う。

委員長：目標に対する指標のひとつの例であるため、単年評価をして比較することであれば、最終年度の数値もまた計画の取り組んだ結果として評価できると思う。

委員：他も変わっていく過渡期であれば、そのようにやっていくのはまったく問題ないと思う。

委員長：平均値を見るところとした場合、計画の全期間がよく、評価時点での直近3年にする必要はないかと思う。委員のご発言を逆にとると、評価の年がちょうど低くても、平均では高くなるということもあり得る。やはり、実態を合わせるには平均を、計画全体の中での目標とできればとよいと思う。その他のご意見はあるか。

委員：説明していただいた断らない窓口、総合相談窓口のようなものをつくると、担当はすごく大変だが、つくりたい、というのはよいと思った。計画案をみると、いろいろな課がさまざまな取組をしてくれるのはすばらしいが、必要な方へ情報が伝わっていないと思う。どのようにして情報を伝えればよいのかと思ったときに、いろいろな窓口に関する情報をトイレに貼る。学校やコンビニのトイレなど、トイレは皆が使う場所だから。学校のトイレに貼ってよいのかはわからないが、目につくところに貼る。相談窓口がありますよと、QRコードもある。そこにつながって、つくるのが大変かもしれないが、SNSのフェイスタイムで相談員がいるとよい。そういうものを人に知らせる。いろいろやっているということを知ると、アンケートの返答にもつながると思う。市民の方に自殺対策に関する取組情報が伝わっていれば、「アンケートが突然送られてきた」と感じるのではなく、回答してもらいやすいのではないか。断らない窓口を本当にやられるのであれば、そのひとつ前に、小中学校に掲示物を貼ることはできないか。情報が多すぎて、皆混乱して、どこかに電話をしても「その件については、うちではありません」と言われたらそれでおしまい。だから、手を離さずに引っ張っていけるようにできるとよいと思う。施策は本当に素晴らしいことが書いてある。だから、そういうことをしっかりやっていると、アンケートの回答率にも繋がるのかと思う。そういうところを考えていけるとよい。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員：53 ページに「地域ケア会議では、地域包括支援センターにおいて」と書いてあるが、本来市が開くことだと思う。この部分は正確に書いた方がよいと思う。「地域包括支援センターにおいて」と書き切ってよいのか。この辺りの表現を整理して書き直していただきたい。

事務局：地域ケア会議については、一緒にやっているものなので、表現を改める。

委員：いろいろな施策をいろいろな課と連携してやっていこうとしていることはよく伝わってきたので、ありがたい。だが、基幹相談支援センターは今年度から動いているが、残念ながら、学校の現場にいて、この言葉を聞いたのが、最近。学校のスクールソーシャルワーカーの方が連携して動いてくださっているということを知った。

委員：江南市などでやっている民間の放課後等デイサービス事業所が連携をしながら学校と関わっていくという事業のひとつか。

事務局：それは別の事業で、児童発達支援センターの職員が学校と連携しながら巡回支援をしているが、岩倉市においても令和6年度から児童発達支援センターで巡回支援等を実施していく。

委員：学校にいても、意外と支援関係機関について知らない。何か事案があると、親と連絡が取れない場合、福祉課に依頼をするとやってくださる。学校は意外と支援につながるルートを知らない。現場がまず支援関係機関を知ること、取組が広がっていくことになると思うため、校長会等で情報提供していただければ協力していきたい。50 ページに若い世代への支援ということで、人権教育に取り組む回数を年3回以上にしようということだが、回数を増やせばよいのか。実際、学校では至る所でやっている。SOSの出し方を発信する教育などは、回数を数えるものではなく、至る所でやっていたり、ポスターの掲示を学校は学校のタイミングで周知している。今の指標だとすでに3回以上はやっているの、目標にならないかと思うので、学校教育課と相談してもらいたい。

事務局：学校教育課には計画案の段階で見ていただき、この指標になっているため、いただいた意見を踏まえ再度相談させてもらう。

委員：42 ページの「既存の会議体等」については、「既存の会議体制」の誤字か。



審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

事務局：「会議体」は行政計画等で使う固有名詞だが、分かりにくいようなので「会議等」に修正する。

委員長：今日出しきれなかった意見があればパブリックコメントでお寄せいただいてもよいかと思う。

**（3）第2期岩倉市自殺対策のパブリックコメントについて**

事務局から説明。

※委員からの意見なし

**3 その他**

事務局：ありがとうございました。本日いただいたご意見については、字句の修正等は委員長と調整をし、修正させていただく。